

北海道山富良野周辺山スキー 山行報告 M浦記

◆日時 2023/2/23～26 前夜発

◆形態 山スキー

◆メンバー L.I崎 A原 T山 T村M T村E M上 K井 M浦 S木 I出 OBY井

恒例行事となった北海道山スキー。あややも初参加で半年前から航空券を予約して準備した。北海道在住のOBY井と数日前から北海道入りしているM上を除く9名は前日の夕刻に羽田を飛び立つ。残念ながらそこにはリーダーのT野の姿はない。急遽参加を見送ることになってしまったので「T野さんの分まで楽しむことができます」ここまで計画していただき本当にありがとうございました。前日、この合宿の会計庶務全般を引き受けてくれるT村Eが予約してくれた新千歳空港近くのホテルグランテス千歳に泊まり早朝にY井と合流し富良野西岳に向かう。

2/23 富良野西岳

◆ルート、時間 富良野岳スキー場トップ＝10.00 850m谷＝10.30 1237m＝11.55 スキー場ボトム＝14.00

富良野西岳は富良野岳の近くにはなく富良野盆地の西側、夕張山地の北のはずれにある山。北海道の地名に疎いので地図を見ないとどこがどこなのかわからない。S木とI出とは初めての山行になる。ロープウェイ乗り場の標識に従って進む。スキー場は雪だが暖かく車に降る雪は溶けてしまうくらい。富良野スキー場のロープウェイとリフトを乗り継ぎ北の峰に上がる。英語で書かれた注意看板が目立つ。10名を束ねるのはここから新リーダーI崎の出番でルートは尾根伝いに行かずに南南西に150m程滑走して谷筋に降りる。シールつけ谷筋を登る、数日前のラッセルを使うが1100m程度でなくなりラッセルがきつい。尾根に近づくと風雪が強い。I崎、T村Mのダブルラッセルで助かる。



富良野西岳まで行かずに雪庇のある1237mピークの直下から滑り出す。シールを付けた地点までは非常に快適な疎林を滑る。浮く感じの粉雪が気持ちいい。標高850mあたりからは沢が割れてしまっているため左岸を仕方なく滑らされる。傾斜がゆるくなる600m地点からは林道状態の道を滑走し、標高400mにある堰堤を越えるとスキー場脇に出て初日は終了。



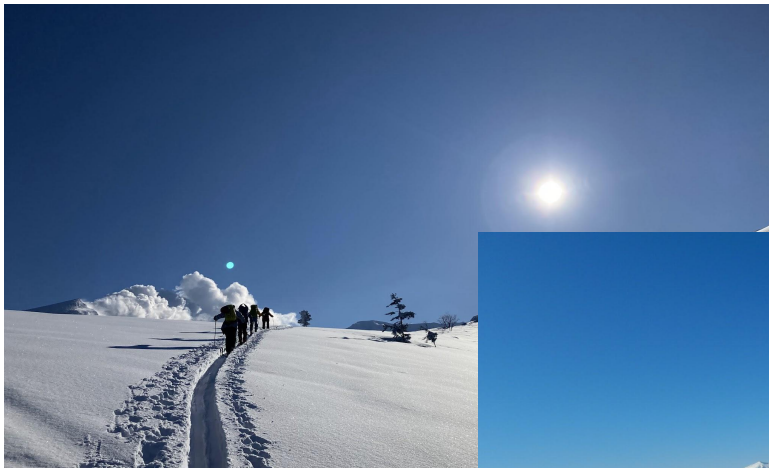
十勝岳山麓の吹上温泉「白銀荘」で自炊の3泊が始まる。温度の異なる3つのかけ流し温泉で温まるが、一番熱い温度では1分も入っていない。宿でM上合流。献立はA原総料理長の下、富良野の街で2日分の買い出し、初日のメインは手巻き寿司、美味。Y井の差し入れクッキー「札幌農学校」を頂く。

2/24 三段山

◆ルート、時間 白銀荘＝7.30 三段山山頂＝

10.00 白銀荘＝11.10(登り返しP＝12.20)

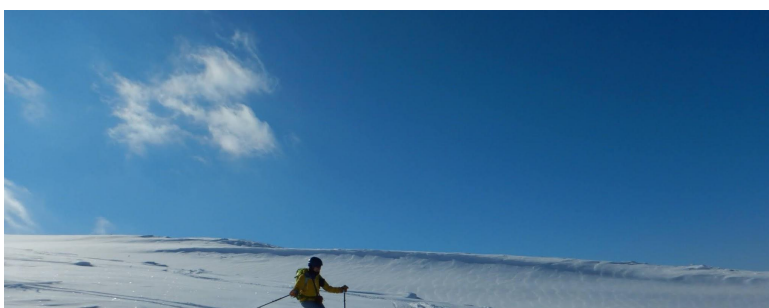
二日目は三段山。白銀荘からすぐにシール登山が始まる。早朝-15℃だが快晴無風の好条件。白銀荘からは三段山は見えないが煙を上げる前十勝岳が望める。1200mくらいまで上がると森林限界となって見晴らしが素晴らしい。目指す三段山が見える。左手遠方に大雪山旭岳がよく見え、噴煙を上げる前十勝が手に取るようだ。右手には富良野岳が美しく、いつか登ってみたいとなった。「初めてでこんな素晴らしい山行ありがとう」とI崎に告げると「もってる人が参加してくれるからだよ」との返答に嬉しくなる。クラストしているが切り返しも必要ないような登りやすい緩やかな尾根を快適に上る。今日はK井が長いことトップを歩いてくれた。最後は元気なM上あっさり和本日の三段山登頂一番乗り。



右手に見えた富良野岳
山頂から右に延びる尾根が
ジャイアント尾根



三段山山頂



視界も十分でここからは気の向くままに往路を滑る。昨日からのうっすら積もった降雪でとても快適。

1300m付近で、もう一度登り返すチームとそのまま宿に降りるチームに別れた。登り返しは標高差150mで西側の谷を滑る。山頂から片方の板のシールを付けたまま滑走してしまったT村Eもここでリベンジ。スキー滑降の下手な、あややも板を幅広にすれば吹き溜まった雪でも少しは楽に降りられるのかなと思う。谷から適当に外れて白銀荘着。本日の夕食のメインは麻婆豆腐。



2/25 富良野岳ジャイアント尾根

◆ルート、時間 白銀荘=7.30 登山口=7.45 1450m地点=10.20
1240m登り開始地点=10.50
1430m=11.30 登山口=12.20

三日目は天候が良ければ前十勝岳を滑る計画もあったが、視界なく

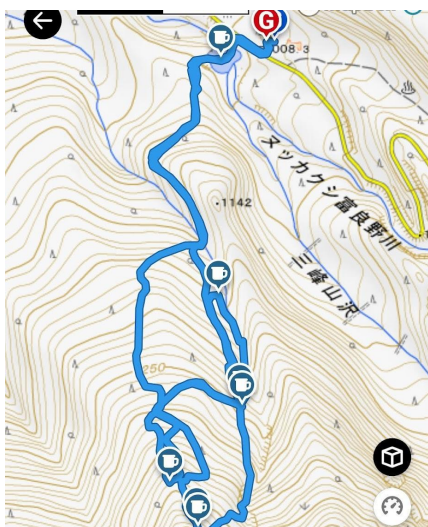
降雪のため、富良野岳の北北西に広がり、標高1500mくらいまで樹林があるジャイアント尾根に向かう。富良野市街から十勝岳温泉に向かう道と交差した宿から車で10分とかからない地点から登山開始。歩きだすとすぐにヌッカクシ富



良野川と三峰山沢を板を外して渡りベベルイ川の右岸を登り、1150m地点あたりで川を横切りジャイアント尾根に取り付く。うっすらと昨日登った三段山のルートが見える。「確かに三段になっているね」とI出。そして今登っているジャイアント尾根は昨日見ていた裾野を広げている富良野岳の尾根だ。途中の休憩でゾンデ棒を使って積雪を測ってみるが3m以上積もっていた。1400mあたりで木立もなくなり、尾根に雪庇が見えてくる。降雪で視界も悪いので

1450mあたりから滑降開始。ここから400m標高を稼げば富良野岳に登頂できると思うと登ってみたいくなる。

滑り出し地点で150cmほど掘ってみるがパウダーのみ、層状の雪面は見られない。今日も雪質良好、快適に下る。ベベルイ川の1250m付近、谷筋が狭まったところは雪崩そうな谷になったので左岸に抜けてさらに降りると先程渡ったベベルイ川に降りる。I崎のルーファイが的確で滑走を楽しめた。本日も二手に分かれ、再度先程滑降を開始した地点の近くまで上がり、今度



は尾根筋を滑る。ここは先程の谷より快適に滑れた。ベベルイ川に降り来た道を引き返した。

午後はまったりと過ごす。本日は私達の隣の部屋に泊まる人たちからA原の還暦祝いと言って、バースデーソングの祝福を受ける。本日は中華丼。

2/26 タケノコ山

◆ルート、時間 登山口＝10.00 タケノコ山山頂＝12.15 登山口＝13.15

宿を引き払って、新千歳空港に向かう途中にあるトマムスキー場の近くにある社満射(しゃまん



しゃ)岳に向かう。はじめて聞く山名だ。社満射岳の東に国土地理院地図には記載のない小ピークのタケノコ山(1039m)がある。本日も雪。登山口近くに映画・鉄道員の舞台となった幾寅駅(映画では幌舞駅)がある。現在列車の運行はされておらず線路は全く除雪されていなかった。内藤の沢川沿いの標高430m付近からスタート。左岸に取り付くが、右岸から取り付いたほうが楽だった。タケノコ山の北西尾根に取り付きターンを重ねて標高を稼ぐ。ここでも先頭をI崎のラッセル。リーダーは背中でパーティーを鼓舞してくれる。850mあたりからダケカンバの疎林となり、ときおり見える青空とあいまってとても美しい。T山の「昼からてんくらはA」と言った通りの天候回復だ。



山頂にはスプリットボードの女性二人連れがいて、「途中から一枚バーンがあるので楽しんでね」と教えていただいた。標高差100m程東側の尾根を滑り、そこから北西の谷に降りる。谷はスキー場跡地のように谷筋には木立がない。今回の山スキーでは最高に気持ちの良い斜面を滑った。みんなから今回の山行一番の奇声が飛び交うほど楽しい斜面と雪質。傾斜がゆるくなる



600m地点あたりからトラバースして往路を引き返した。タケノコ山は最終日にとりあえず設定された山だと思っていたが、今回の4ルートで最高に楽しい山スキーができた。標高1000m程度の山で十分に山スキーが堪能できるのはさすが北海道。



新千歳に向かう途中、雪のため羽田に向かう飛行機が欠航するとの連絡が入る。数名の方が翌日のフライトに変更せざる得なくなった。この時期は山はもちろん飛行機も天候に左右されるのでした。

あややの冬の北海道は35年ぶり。その時ニセコのスキー場トップからニセコアンヌプリの南峰まで標高差100m程ゲレンデスキー板を担いで滑った。その気持ちよさが山スキーを始めるきっかけ。今回は初参加で4日とも快適なスキー滑降が楽しめた。指先に感覚が無くなるような寒さもなく、雪質はとても気持ちよく、やっぱり北海道は一味違う。

ルート計画、半年前からの宿の手配、雪道の運転、食料計画と調理など沢山の方々に支えられて実行できたことは感謝です。ありがとうございました。もう来年の北海道山スキー計画を練っている方がいるんですね。素晴らしいです。